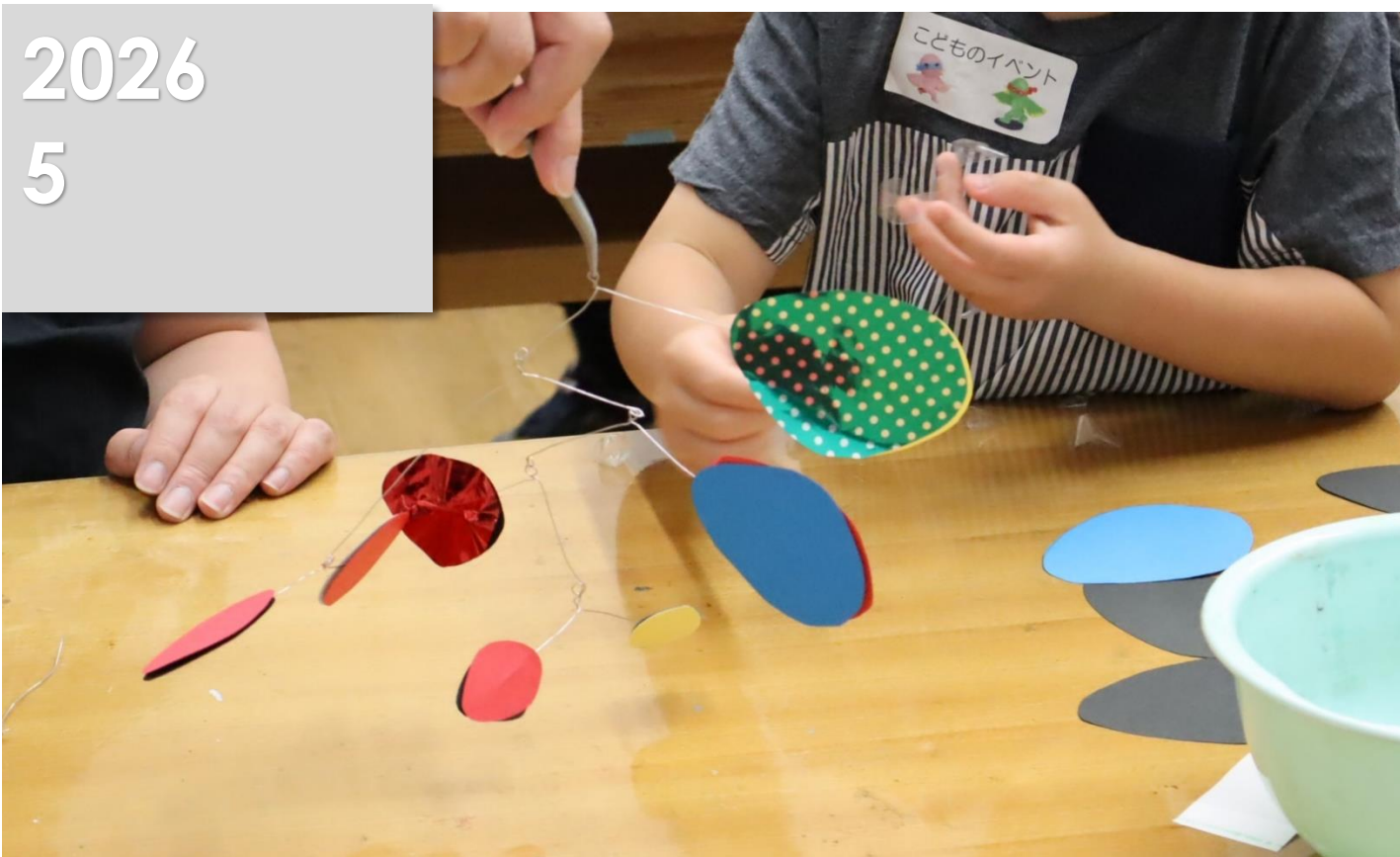




■色画用紙と針金をつかった制作

好きなかたちを選んだら、針金にテープで固定し、左右のバランスをとっていきます。子どもたちの指先では、やじろべえのようにかたちがゆらゆら。針金で輪をつくり、別の針金をつなぐ作業は少し難しく、保護者の方と協力しながら、ペンチを使ってゆっくりと作り進めていきました。

「このかたちだと小さい」「この色を使ってみたい」子どもたちは、それぞれに考えながら、かたちや色を組み合わせせていきます。制作が進んでくると、さらに自由な工夫も見られるように。自分でオリジナルのかたちをつくって貼り付けたり、かたちに絵を描いたり……。一人ひとりが試行錯誤しながら、自分だけのモビールをつくっていました。



わからないことはエデュケーターに質問！



展示室にて、みんなで作品鑑賞

■作品鑑賞

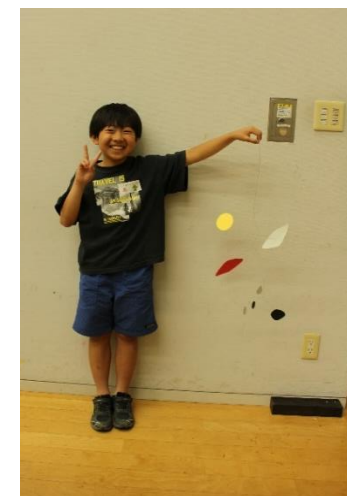
制作が終わると、中谷学芸員と一緒に展示室へ。そこで、アレクサンダー・カルダーがつくったモビール作品をじっくり鑑賞しました。「この作品は《赤い噴水》というタイトルです。みんながつくったモビールと、違うところはあるかな？」学芸員からの問いかけに、子どもたちからは、「揺れ方が違う！」「つなぎ目（接続部分）が違う」「針金の部分が赤い！色がついてる！」など、さまざまな声が上がりました。実際に自分でモビールをつくったからこそ気づくことのできた、細かな違いや工夫。自分でつくった経験を通して作品を見つめることで、新たな発見が生まれていました。

さらに、3階の展示室へ向かう途中では、階段の天井に吊るされた新宮晋の《星の海》にも注目。「ゆれてるよ！」「すごく大きい！きれい！」子どもたちだけでなく、保護者の方も思わず足を止め、作品に釘付けになっていました。

■ふりかえり

最後はアトリエに戻り、完成したモビールを眺めながら、参加者みんなで感想を共有しました。同じ針金と画用紙を使っている、完成したモビールは一つひとつ違います。選んだかたちや色、組み合わせ方、揺れ方にも、それぞれの個性が表れていました。子どもたちに作品のタイトルを聞いてみると、「木の実」「黄色の月」「どんぐりの木」「宝石」など、身近な自然をタイトルにしている子どもたちが多く、その豊かな想像力にも驚かされました。なかには「ふりかけ」という、ユニークなタイトルも！

今回、子どもたちは「どうしたらバランスがとれる？」「どうしたら揺れる？」とモビール制作に試行錯誤しながら、作品の仕組みや動きについてたくさん考えました。そこでの発見や気づきが作品への理解につながり、楽しく学びの多い時間になりました。（小田美沙紀/エデュケーター）



子どもたちのつくったモビール

□担当学芸員からのコメント

アレクサンダー・カルダー（1898-1976）の「モビール」は、美術史に残る発明といっても過言ではありません。重さのバランスを取りながら、下から上に向かって構築していくのですが、この手法、誰がやっても妙にカルダーっぽくなってしまいます。そのくせ、似せようとするほど偽物感がでる、というのが凄いところです。それでも、今回ミニ・カルダーたちが手がけた個性豊かな「モビール」のなかには、カルダー風でも、偽カルダーでもない、あたらしい表現が見え隠れしており、面白い発見がありました。こどもたちの制作に、カルダーという陽気で無邪気な芸術家の真髓を見た気がします。（中谷学芸員）

コレクション展Ⅰ「中原佑介の言葉－コレクションを見るあたらしい眼」関連

こどものイベント「親子でつくろう！ゆらゆらモビール」

■開催日時：2026年5月23日(土) 13:30～16:00

■参加者：こども14名、保護者14名

■対象：小学生～中学生と、その保護者

■会場：アトリエ2、3階展示室

■概要

コレクション展Ⅰの出品作品の中から、アレクサンダー・カルダーのモビールに注目。針金と色画用紙を使ってゆらゆら揺れるモビールを制作した後、展示室でカルダーの作品を鑑賞しました。

■オリエンテーション、制作の説明

美術館に展示されている絵や彫刻。でも実は、「動く」作品もあるって知っているかな？今回はコレクション展に展示されているモビール作品に注目し、実際にモビールをつくりながら、作品の魅力に触れるプログラムを開催しました。最初は、エデュケーターによる制作方法の説明からスタート。あらかじめ用意されたさまざまなかたちのなかから好きなものを選び、バランスをとりながら針金に固定していきます。ポイントは、小さなかたちから選び、上にいくほど大きなかたちを使ってバランスをとること。今回は、針金やニッパー、ペンチといった道具を初めて使う子どもたちも多く、みんな少し緊張しながらも、さっそく制作に取りかかりました。



好きな色のかたちを選ぼう

◇参加者の感想

・こうくみあわせたら、こうなって、こうあわせたら、こうごくとわかってペンきょうになりました。おもしろいとおもいました。（小3）

・はりがねを曲げるのがむずかしかったけれど、はじめてのたいけんでおもしろかったです！（小4）

・初めてペンチやニッパーを使用し、夢中になって立体物全体に目を向けて制作をしていました。ありがとうございました。（保護者）

・作りたいものがすぐにイメージでき、タイトルもつけてすごく楽しんでいました。学芸員の方の説明もためになったと自分学習に書くと言っていました。（保護者）